

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690168269
法人名	株式会社グレイスウェルネス
事業所名	グループホームサムデイワルツ
所在地	徳島県徳島市川内町平石若松95
自己評価作成日	令和7年11月1日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和7年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所ではご利用者様に「明るく楽しく安らぎと幸せを実感」を常に基本に置き、職員が新たな催しを色々考えて、毎月行事を行っております。川内町の文化祭や、郵便局にも、ご利用者様と一緒に作成した作品を展示させて頂いております。地域住民様の御意見をいただいたりしております。家庭的な雰囲気の中で、安心してお過ごし頂けるように、毎週的主治医の往診や、看護師を配置して衛生管理、身体管理を行っております。環境面では草花や季節の野菜を育て、野菜の収穫や水やりを手伝って頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った所に位置し、周りは田畑や民家が広がり、のどかな風景が見渡せる。理念である「明るく楽しく安らぎと幸せを実感」を全職員が介護の基本であると考え、共有理解のもとに、利用者の人格や尊厳を大切にサービスの提供に努めている。職員は、町内会の一員として、近隣神社の清掃活動や資源ごみの回収に参加するなど、地域貢献活動にも取り組んでいる。利用者とともに、玄関や中庭で草花の栽培活動から種や多肉植物の配布を行ったり、書道、塗り絵、俳句、手作りの作品を地域文化祭へ出展の外、定期的に地元郵便局の作品ブースに掲示させてもらっている。医療面では、本人・家族等の希望にそったかかりつけ医への定期受診支援や、協力医療機関からの往診も毎週受けている。常勤看護師の配置により、日常的な体調不良に加え緊急時の対応についても相談しやすい体制構築に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念を職員全員が意義をふまえた支援に取り組んでおります。	創設時から変わらない事業所理念は、毎月の会議の中で話しあったり、玄関、事務所、各ユニットの目につく所に掲示し、職員は地域密着型サービスの意義も理解し、理念にもとづいた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの神社の清掃活動に参加し、廃品回収のお手伝いもさせて頂いております。地域の方々との交流は、コロナがまだ終息していないが、少しずつですが再開しております。	職員は、町内会活動で近隣神社の清掃活動や隔月に行われる資源ごみ回収に参加している。地域文化祭に作品を出展するほか、皆で育てた花の種や多肉植物を配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に育てた草花やレクリエーションで作成した作品を川内町の文化祭や郵便局等に展示させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合っています。外部研修の伝達研修や内部研修、運営推進会議での意見を日常のケアに反映しています。講師の先生をお招きして勉強会も行っております。	2か月毎に開催。家族等や民生委員・近隣保育所園長・住職・地域包括支援センター・他のグループホームの管理者等の出席を得ている。意見交換や講師を招いての勉強会も行っている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には相談事や疑問がある時は、電話やメールなどで相談に乗ってもらっている。生活保護の方の受け入れも行っており、担当ケースワーカーとも連絡を密に取るようにしている。	管理者は、毎月市担当窓口を訪問している。実績報告書を提出する際、日頃の取組についても会議録や写真により伝えている。業務では、加算等の分からないことについて相談を行うなど顔の見える関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、カンファレンス時、毎月のように話し合いを行い、体拘束をしないケアに取り組んでいます。新入職員には、身体拘束についての勉強会を行っております。ご家族様にもその旨お知らせしています。	3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。1か月ごとのケアカンファレンスでも話し合いを行っている。玄関の施錠においても、日中は常に解錠しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の虐待防止委員会の開催と施設内で勉強会を行い、職員間で理解を進め、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	1階	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は施設内で権利擁護に関する制度について研修を行っています。新しく入居された利用者様には、権利擁護の説明をさせて頂いております。また、相談された時には個別に対応もさせて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはご本人様やご家族様に対して「契約書」「重要事項説明書」については十分な説明を行っています。不安や疑問には具体的に答えるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常の会話の中から要望を聞くようにしています。ご家族様からは面会時に直接伺うか、運営推進会議出席時にお聞きしたり、電話等も活用してコミュニケーションを取るように心がけています。	職員は、日頃の関わりのなかで、意見や要望を聴き取っている。申し送りノートに記録のうえ、全職員で話しあって、応えるように取り組んでいる。家族等には、面会時の聴き取りや電話を活用し聴き取りを行い運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するカンファレンスや勉強会の中で、職員間で話し合う機会を設けている。代表者や管理者も現場に入り、日常的に相談しやすい風通しの良い環境づくりを心がけています。	管理者及び代表者は、日頃から職員と一緒に業務を遂行し、何でも話せる関係となっている。毎月のカンファレンスでも意見や要望を聞き、改善にむけ取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況について把握するように務め、その都度向上心を持って働けるように声掛けをして、評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には順次、研修を受ける機会を設けております。また、サービスの質の向上に努めております。カンファレンス時にはケアで気が付いた点等、改善した点を共有できるように話し合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努め、施設で活かせる取り組みを行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行っています。または、見学を実施し、施設の雰囲気を味わってもらえるようにしています。利用者様やご家族様の希望や、困っている事に耳を傾け、生活歴の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時にご家族の困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、受け止めるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人や家族の生活環境や身体状況などの情報収集を行っています。又、面談を行ってその中で最も必要としている支援を見極めるようにしています。もし満床であったり他のサービスが適切だと判断した時は他のサービスを紹介するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に日常生活において行動を共にして、役割分担をする事で職員が助けられる場面が生活の色々な場面で見られており、共に支え合い、学び、信頼関係が築けます。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの敬老会や誕生会などへの参加の呼びかけ、可能であれば病院受診への同行もお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の感染状況を注視しながら、外出等を再開しています。基本的に面会も感染予防を徹底して行っています。制限が必要なときには、電話やライン通話の送信などして、関係継続の支援に取り組んでいます。	事業所では、少しずつではあるが、近くの海岸ドライブや季節の花見に出向いている。2か月毎に馴染みの訪問散髪を利用したり、家族の協力により外出や外泊を行ったりするなど、馴染みの人や場所に行き、関係継続ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院へ転院された場合でも、面会へ行ったり、必要に応じては本人や家族の相談を聞ける体制を取るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃よりご利用者様とコミュニケーションを図り、支援を行っております。ご利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めております。	職員は、利用者一人ひとりの思いや暮らし方について、聞き取った事や気づいた事を申し送りノートに記載するようにし、出来るだけ希望や意向にそった支援に努めている。意思表示が困難な場合は利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の馴染みの暮らし方や生活環境をご本人様や、ご家族様よりお聞きして、情報収集しサービス利用の経過等把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する能力などについては一人一人介護日誌に記録し、全職員で把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人様から希望や、ご要望をお聞きして、職員と話し合い、ご本人様の現状に則した介護計画作成に努めております。	事業所では、利用者や家族、医師、看護師、薬剤師等からの意見を把握し、介護計画を作成している。月1回のモニタリング及び心身の状況に応じた見直しも行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や、介護計画を活かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出等や本人の希望による買物等の外出の支援や、家族との交流を図る敬老会等の行事を企画して実践しています。又、通院援助やホームでの造園や野菜栽培等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握するように務め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様と相談させて頂いた上で、かかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いております。適切な医療を受けられるように支援しております。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医を受診している。協力医療機関からは、毎週の来訪があり看護職員の報告も聴き取り、適切なアドバイスや薬の処方に取り組んでいる。専門医への受診は家族等と協力し、必要に応じて受診同行等の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ病院等の看護師からの情報を引き継ぎ、当ホームの看護師により健康管理をしています。一人ひとりのご利用者様が、適切な看護や受診を受けられるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、着替え等の洗濯物の交換はホームで行うようにしています。又、病院を訪問した際には病院関係者より情報を頂き、できる限り早期退院が出来るように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、入居者や家族に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、希望を聴いています。入居者の重度化が進んだ時点で、再度移行を確認し、主治医を交えて方針を話し合うようにしています。又、看取り介護に関する研修を行い入居者が安心して最期までホームで暮らせるように支援しています。	事業所では、契約時の段階で、利用者・家族等に重度化や終末期における方針について説明を行っている。また、心身の状況変化に応じて意向を再確認している。体調の急変時には、協力医療機関や、常勤看護師にも連絡が取れ、看取りについての研修も行い全職員で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い、緊急時の対応や事故発生時に備え応急手当や初期対応の手技や方法を身につけております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制作りを目指しております。	年2回、避難訓練を行っている。日中の避難訓練は、利用者も一緒に行っており、家族等にも声かけし訓練の様子も見ていただき意見を聴き取っている。備蓄については、5日分の水や米、紙おむつなど整理・管理が出来ている。しかしながら、地域と災害時の問題や意見を交換するまでには至っていない。	地域との交流はあり、会議にも参加を得ているため、それらの活用が望まれる。災害時について議題を取り上げ、特に立地上の観点から避難先も含めた話し合いが求められる。地域をよく知る関係者からの情報収集に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライバシーや自尊心を損ねないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援を行っております。入居時に個人情報取扱について説明し、同意書を得ています。	職員は、日頃の支援の中で、希望者への同性介助、声かけや誘導においてプライバシーを損ねないよう気をつけている。居室入室時やトイレなどではノックをするなど基本的なことから、言葉遣いや接遇についての研修も行い、サービスの質の向上と尊厳の保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々の表情や言葉から読み解き理解し、自己決定が出来るように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな流れはあるが、その日の入居者のそれぞれの状態や希望を聞きながら、その人のペースに合った一日が過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れや髭剃り等、整容やお洒落などを支援しております。ご入居者様とご家族様の好みにより、訪問美容、訪問理容を選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	関連施設の厨房で、食事を作っていますが、お花見など、イベントの時には、特別の料理を提供しております。テーブル拭き等出来る事はご利用者様にお願いし、役割を持って食事を楽しめるように努めています。	食事は関連施設の厨房で調理されたものを盛り付け提供している。季節行事やイベントには特別な料理となる。近隣住民より差し入れがあり、おやつ作りをすることもある。利用者が出来る事を見つけ、テーブル拭き等の役割の提供を通じ、利用者の意欲向上と生活の彩りに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し一日の摂取量を満たしております。入浴後や体操後等、水分補給をして頂き食事量が少ないご利用者様が食べやすいように形状工夫したり、ご家族様に了解を得て栄養補助食品を提供したり一人ひとりに合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ毎食後の歯磨き支援や、義歯使用の方には夕食後洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。		

自己	外部	項目	1階	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様、一人ひとりの能力に応じた支援を心掛けております。排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、出来るだけトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援しております。また、ご家族様の意向に添った支援にも心掛けております。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけや誘導を行い、気持ち良くトイレでの排泄が出来るよう支援している。希望に応じてポータブルトイレを居室でも使用し、自立に向けた個別の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で、散歩や体操により身体を動かす事や、食事(水分)量等に注意をしています。排泄チェック表での排便確認を行い、主治医との相談の上、服薬にて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じて入浴をして頂いております。入浴を拒むご利用者様には職員を替えたり、時間を変えての言葉かけを行い、理由を聞き対応しております。	事業所では、少なくとも週2回の入浴を支援している。体調や状態に応じて2人体制で対応し清潔保持に努めている。好みのシャンプーリンスの使用や、季節を感じるゆず湯等工夫し、リラックスできる環境や、楽しむことができる支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの生活習慣を把握し、一人ひとりの対応を心掛けて、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解して、症状の変化や安定について職員間で話し合い、毎週主治医の往診時、常駐の看護師に報告しています。投薬時の確認も厳重に行い変更時も間違いのないよう職員間で情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担が出来ており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋は花見にでかけています。近場への散歩に行ったり、ご家族様との外出や外食を楽しんでもらっています。	日頃から近隣の散歩や中庭ウッドデッキでの日光浴を行っている。玄関前に草花を育て、水やりやメダカの餌やりを楽しみにしている。季節の花見やドライブに出かけることもある。家族等の協力を得て外出や外食、外泊等の希望に応じて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者様が、お金を持ち管理することの大切さを理解しており、ご家族様と相談し希望や能力に応じて所持していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインによるテレビ電話等ご利用可能な方法で要望に合わせた支援をしてさせて頂いております。年賀状・季節のお便り、手作りのお手紙の支援もさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には庭やプランターで咲いた草花を生けたり、玄関や中庭、花壇では季節ごとの草花を育て穏やかで心地良い空間の提供をしております。リビングでは、できる限り馴染みのある空間づくりを目指しております。	共用空間は、中庭の景色を眺められる大きな窓から光が差し込むなど明るさに配慮している。職員は毎日清掃を行い、温度、湿度、換気にも配慮している。壁面には利用者の習字や塗り絵等作品の掲示、季節の飾り付けで、イベントを皆で楽しめる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ気の合った仲の良いご利用者様でパズルや塗り絵をしたりして、会話を楽しまれております。一人でも漢字ドリルや数字合わせなどをして思い思いに過ごせるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との写真や趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等ご本人様が用意されています。職員は、ご利用者様と相談し、ご家族様に要望を伝える支援をしております。	日当たりに配慮した明るい居室には、使い慣れた家具や調度品が持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせる空間となっている。掃除や衣類の整理は職員と一緒に、清潔と安全を保っている。また、利用者の希望する物や要望があれば家族等に連絡を取っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場などの共有部分には目印をかけたり、歩行ルートの安全確保をして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫しております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価 2階 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念を職員全員が意義をふまえた支援に取り組んでおります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの神社の清掃活動に参加し、廃品回収のお手伝いもさせて頂いております。地域の方々との交流は、コロナがまだ終息していないが、少しずつですが再開しております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に育てた草花やレクリエーションで作成した作品を川内町の文化祭や郵便局等に展示させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合っています。外部研修の伝達研修や内部研修、運営推進会議での意見を日常のケアに反映しています。講師の先生をお招きして勉強会も行っております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には相談事や疑問がある時は、電話やメールなどで相談に乗ってもらっている。生活保護の方の受け入れも行っており、担当ケースワーカーとも連絡を密に取るようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、カンファレンス時、毎月のように話し合いを行い、体拘束をしないケアに取り組んでいます。新入職員には、身体拘束についての勉強会を行っております。ご家族様にもその旨お知らせしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の虐待防止委員会の開催と施設内で勉強会を行い、職員間で理解を進め、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は施設内で権利擁護に関する制度について研修を行っています。新しく入居された利用者様には、権利擁護の説明をさせて頂いております。また、相談された時には個別に対応もさせて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはご本人様やご家族様に対して「契約書」「重要事項説明書」については十分な説明を行っています。不安や疑問には具体的に答えるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常の会話の中から要望を聞くようにしています。ご家族様からは面会時に直接伺うか、運営推進会議出席時にお聞きしたり、電話等も活用してコミュニケーションを取るように心がけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するカンファレンスや勉強会の中で、職員間で話し合う機会を設けている。代表者や管理者も現場に入り、日常的に相談しやすい風通しの良い環境づくりを心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況について把握するように務め、その都度向上心を持って働けるように声掛けをして、評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には順次、研修を受ける機会を設けております。また、サービスの質の向上に努めております。カンファレンス時にはケアで気が付いた点等、改善した点を共有できるように話し合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努め、施設で活かせる取り組みを行っています。		

自己 外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
		実践状況		実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面談を行っています。または、見学を実施し、施設の雰囲気を感じてもらえるようにしています。利用者様やご家族様の希望や、困っている事に耳を傾け、生活歴の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時にご家族の困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、受け止めるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人や家族の生活環境や身体状況などの情報収集を行っています。又、面談を行ってその中で最も必要としている支援を見極めるようにしています。もし満床であったり他のサービスが適切だと判断した時は他のサービスを紹介するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に日常生活において行動を共にして、役割分担をする事で職員が助けられる場面が生活の色々な場面で見られており、共に支え合い、学び、信頼関係が築けます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの敬老会や誕生会などへの参加の呼びかけ、可能であれば病院受診への同行もお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の感染状況を注視しながら、外出等を再開しています。基本的に面会も感染予防を徹底し行っています。制限が必要なときには、電話やライン通話の送信などして、関係継続の支援に取り組んでいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように務め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院へ転院された場合でも、面会へ行ったり、必要に応じては本人や家族の相談を聞ける体制を取れるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃よりご利用者様とコミュニケーションを図り、支援を行っております。ご利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の馴染みの暮らし方や生活環境をご本人様や、ご家族様よりお聞きして、情報収集しサービス利用の経過等把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する能力などについては一人一人介護日誌に記録し、全職員で把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人様から希望や、ご要望をお聞きして、職員と話し合い、ご本人様の現状に則した介護計画作成に努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や、介護計画を活かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに取り組んでおります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出等や本人の希望による買物等の外出の支援や、家族との交流を図る敬老会等の行事を企画して実践しています。又、通院援助やホームでの造園や野菜栽培等を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の暮らしを支えている地域資源を把握するように務め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様と相談させて頂いた上で、かかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いております。適切な医療を受けられるように支援しております。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ病院等の看護師からの情報を引き継ぎ、当ホームの看護師により健康管理をしています。一人ひとりのご利用者様が、適切な看護や受診を受けられるようにしております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、着替え等の洗濯物の交換はホームで行うようにしています。又、病院を訪問した際には病院関係者より情報を頂き、できる限り早期退院が出来るように支援しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、入居者や家族に重度化した場合や終末期についての方針を説明し、希望を聴いています。入居者の重度化が進んだ時点で、再度移行を確認し、主治医を交えて方針を話し合うようにしています。又、看取り介護に関する研修を行い入居者が安心して最期までホームで暮らせるように支援しています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い、緊急時の対応や事故発生時に備え応急手当や初期対応の手技や方法を身につけております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制作りを目指しております。			

自己 外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライバシーや自尊心を損ねないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援を行っております。入居時に個人情報の取扱について説明し、同意書を得ています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々表情や言葉から読み解き理解し、自己決定が出来るように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな流れはあるが、その日の入居者のそれぞれの状態や希望を聞きながら、その人のペースに合った一日が過ごせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れや髭剃り等、整容やお洒落などを支援しております。ご入居者様とご家族様の好みにより、訪問美容、訪問理容を選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	関連施設の厨房で、食事を作っていますが、お花見など、イベントの時には、特別の料理を提供をしています。テーブル拭き等出来る事はご利用者様にお願いし、役割を持って食事を楽しめるように務めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し一日の摂取量を満たしております。入浴後や体操後等、水分補給をして頂き食事量が少ないご利用者様が食べやすいように形状工夫したり、ご家族様に了解を得て栄養補助食品を提供したり一人ひとりに合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ毎食後の歯磨き支援や、義歯使用の方には夕食後洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様、一人ひとりの能力に応じた支援を心掛けております。排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、出来るだけトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援しております。また、ご家族様の意向に添った支援にも心掛けております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で、散歩や体操により身体を動かす事や、食事(水分)量等に注意をしています。排泄チェック表での排便確認を行い、主治医との相談の上、服薬にて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じて入浴をして頂いております。入浴を拒むご利用者様には職員を替えたり、時間を変えての言葉かけを行い、理由を聞き対応しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの生活習慣を把握し、一人ひとりの対応を心掛けて、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解して、症状の変化や安定について職員間で話し合い、毎週の主治医の往診時、常駐の看護師に報告しています。投薬時の確認も厳重に行い変更時も間違いのないよう職員間で情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担が出来ており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋は花見にでかけています。近場への散歩に行ったり、ご家族様との外出や外食を楽しんでもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用様が、お金を持ち管理することの大切さを理解しており、ご家族様と相談し希望や能力に応じて所持していただいております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインによるテレビ電話等ご利用可能な方法で要望に合わせた支援をしてさせて頂いております。年賀状・季節のお便り、手作りのお手紙の支援もさせて頂いております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には庭やプランターで咲いた草花を生けたり、玄関や中庭、花壇では季節ごとの草花を育て穏やかで心地良い空間の提供をしています。リビングでは、できる限り馴染みのある空間づくりを目指しております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ気の合った仲の良いご利用者様でパズルや塗り絵をしたりして、会話を楽しまれております。一人でも漢字ドリルや数字合わせなどをして思い思いに過ごせるようにしております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との写真や趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等ご本人様が用意されています。職員は、ご利用者様と相談し、ご家族様に要望を伝える支援をしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場などの共有部分には目印をかけたり、歩行ルート of 安全確保をして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫しております。			